

小泉悪政への怒り結集しよう

年金改悪・増税反対ネットワーク愛知を結成



ネットワーク愛知の結成総会
会場をうめつくす人たちの参加で熱気いっぱい

小泉政権の年金制度改悪、消費税率引き上げなどの増税に反対するネットワーク愛知の結成総会が2月1日、名古屋市中区の名証ホールで開かれました。愛労連や愛知県社会保険推進協議会などがよびかけたもので、労働組合や業者、婦人団体などから120名が参加しました。

大きな共同で財界の狙いはね返そう
冒頭、愛労連の見崎徳弘事務局長は「いっしょに考え、よりよい希望の持てる

年金・税制を大きな共同でめざそう」とあいさつ。記念講演にまねいた年金実務センター代表の公文昭夫さんは、年金改悪と増税を国民に押しつけようとしている財界の狙いについて講演しました。

討論では「一目でわかる学習用パネルを大量に制作したので、すべて職場で学習会を開き大きな運動をつくる」（自治労連）、「04年度の年金改悪がマスコミに報道されてから社会保険事務所に相談に来る人が殺到している。退職後の年金を示

すと多くの人が『これでは老後の生活ができない』と怒っている」（全厚生）、「組合員には臨時やパート

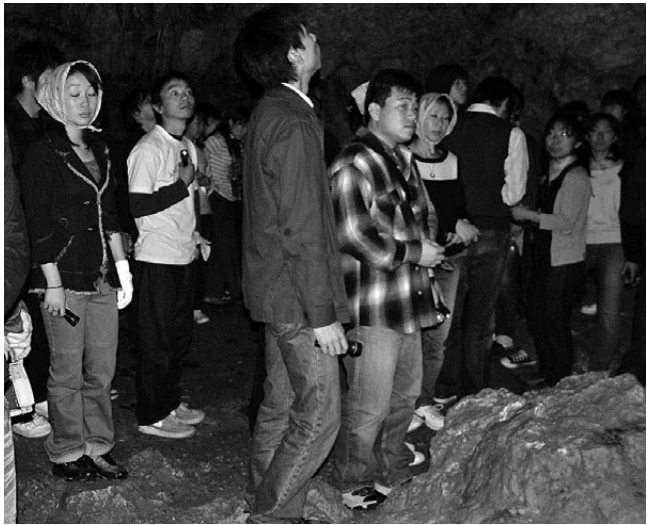
が多いが、この人たちは失業や休職中に国民年金を支払っていないくて25年の受給資格に欠ける人が多い」「きずな、一少しの年金で暮らす1人暮らしの高齢者が多い。世界23カ国で実施している最低年金保障制度の実現をめざしてがんばる」などの発言が相次ぎました。

2・24にシンポジウム 4・4には県民大集会

同ネットワークでは今後、今月24日には名古屋市中区熱田区の労働会館でシンポジウム、4月4日には中区の久屋広場で県民大集会を開くことにしています。

3つのポイントを 大切にしてきた成果

自治労連県本部青年部は1月に2泊3日の「沖縄平和ツアー04」を開催しました。参加者は青年組合員ばかり11単組から92名が集まり大成功をおさめました。県本部青年部として過去に4回の同ツアーや他の企画を開催しましたがいずれも30人程度の参加で、今回の92人という数字はまさに空前の規模となりました。（自治労連愛知県本部青年部発）



糸数のアブチラ壕を見学する自治労連青年部の仲間

始まりは、2年前「どうせやるなら楽しい活動がしたい」という1人の新役員の声からでした。それまでの活動は上部団体主催のものばかりで、役員同士も「活動がつまらない、早く終わって帰りたい」と行き詰まっていた。そんななか、これを変えよう」と話し合い、出した答えは、「役員同士が徹底的に仲よくなろう」「1年にひとつは独自の交流企画をおこなおう」「全国組織の交流企画には職場の青年を積極的に連れだそう」という3つのポイントでした。そうして2年間活動してきて、役員も5人から7人、12人とどんどん増えていきました。沖縄ツアーのとりくみを

決定し、参加者を募る段階でもこの3つのポイントを大切にできた成果が威力を發揮しました。役員同志がオフの日も互いに職場の友人を誘い合って遊びに行ったり、互いの単組に積極的に顔を出し合って互いを激励したりしていたため、職場を越えての繋がりができただけでなく、青年の知の知らない人と同行する事への抵抗感がなくなり、むしろ新たな仲間づくりの要求に変わっていたのです。沖縄では平和祈念資料館や平和の礎（いしじ）、糸数のアブチラ壕（ガマ）、普天間や嘉手納基地などを見学。沖縄の過去といまを学びました。沖縄は初めてという青年も多く、戦跡や基地はどれも刺激的だったようですが、特に糸数のアブチラ壕（ガマ）は全ての

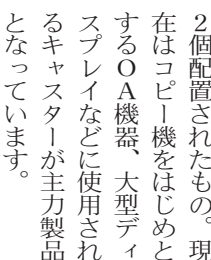


樋口 伸也 さん
全日本金属情報機器労働組合
愛知支部東海キャスター分会

安定した製品製造の コーディネート

双輪タイプのキャスターメーカーとしては草分け的存在の東海キャスター（株）。樋口伸也さんは現在、同社の品質管理係長で、働き初めてまもなく26年のベテランです。

キャスターとは重い家具、什器等にとりつける車で向きが自由になる双輪（あしぐるま）のこと。双輪タイプとは下の写真のように車が左右に2個配置されたもの。現在はコピー機をはじめとするOA機器、大型ディスプレイなどに使用されるキャスターが主力製品となっています。



「大変でしたけど、プラスチック部品の自社製造を立ちあげることによって、コストダウンを計ることもできましたし、安定した部品でキャスターを製造できるようになりました」と樋口さん。同社の主力となるキャスターはプラスチックや金属、ゴムなどの部品になり、信頼できる製品供給体制を築き発展させるもの。今後は信頼できる品質の製品製造、供給を保障するISO9000（国際標準化機構の品質保証に関する国際規格）を取得する担当として忙しくなっています。

参加者に強烈な印象をあたえたようです。「胸が苦しくなった」「亡くなった方々のことを思うと、今の生活がいかに幸せなのかわかった」という感想がいくつもありました。

職場をこえた つながりは今後の財産

アンケートでは他にも「イラク戦争も今後何十年も人々を苦しめるのかと思うと、その罪の重さを感じてほしい」と、多くの声がありました。戦争の恐ろしさ、悲惨さだけでなく、戦後の運動で戦争に立ち向かう人々の心と絆の強さ、平和憲法の素晴らしさと大切さを参加者全体で実

感することができたと思います。今回のとりくみで得たのは「まず自分自身が積極的に相手に会いに行くこと、普段からいつも青年と交流していることが青年を活動に引きつける」という教訓と、役員一同が本当に一丸となって頑張ったという一体感と団結力でした。そして100人近い青年がともにつくり上げた職場を越えての繋がりは、これからの県本部の大きな財産になると思います。

多くの青年組合員たちとともに、これを忘れずに今後の活動に繋げ、大きく新しい世代の平和運動、そして労働運動に発展させることができると思います。

●前号クイズの答え●
ネンキンカイアクダイ
ゾウゼイハンタイでした。抽選結果は商品の発送をもって。

みんなのこころ

■トヨタ自動車労組が2年連続のベア見送り一時金要求引き下げを決めたというニュースが流れた。世界第2位に販売台数を伸ばし空前の利益をあげているトヨタ自動車の労働組合がたかかわない影響は愛知県内のみならず、日本中の春闘に水をさすものと言わざるをえない。そんな中、今年もトヨタ総行動がとりくまれる。真にたたかう仲間たちによって、心強い限りである。（生協労連名動生協労組・本多一郎）■「仕事がなくならぬ、働く場が消える」が身近になってきました。だ